

日本思想史

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
日本思想史特論Ⅰ	お葬式 of 思想史	2	引野 亨輔	1	火曜4限
日本思想史特論Ⅱ	旅から探る日本思想史	2	引野 亨輔	2	火曜4限
日本思想史特論Ⅲ	お葬式 of 思想史	2	引野 亨輔	1	火曜4限
日本思想史特論Ⅳ	旅から探る日本思想史	2	引野 亨輔	2	火曜4限
日本比較思想史特論Ⅰ	水平社・西光万吉論Ⅱ	2	片岡 龍	2	月曜3限
日本比較思想史特論Ⅱ	水平社・西光万吉論Ⅱ	2	片岡 龍	2	月曜3限
日本文化思想史特論Ⅰ	水平社・西光万吉論Ⅰ	2	片岡 龍	1	月曜3限
日本文化思想史特論Ⅱ	水平社・西光万吉論Ⅰ	2	片岡 龍	1	月曜3限
日本思想史総合演習Ⅰ	日本思想史の諸問題Ⅰ	2	引野 亨輔	1	水曜4限
日本思想史総合演習Ⅱ	日本思想史の諸問題Ⅱ	2	引野 亨輔	2	水曜4限
日本思想史総合演習Ⅲ	日本思想史の諸問題Ⅰ	2	引野 亨輔	1	水曜4限
日本思想史総合演習Ⅳ	日本思想史の諸問題Ⅱ	2	引野 亨輔	2	水曜4限
日本思想史研究演習Ⅰ	日本思想史の諸問題Ⅰ	2	引野 亨輔	1	水曜5限
日本思想史研究演習Ⅱ	日本思想史の諸問題Ⅱ	2	引野 亨輔	2	水曜5限
日本思想史研究演習Ⅲ	日本思想史の諸問題Ⅰ	2	引野 亨輔	1	水曜5限
日本思想史研究演習Ⅳ	日本思想史の諸問題Ⅱ	2	引野 亨輔	2	水曜5限

科目名：日本思想史特論 I

曜日・講時：火曜 4 限

セメスター：1 単位数：2.00 単位

担当教員：引野 亨輔

コード：LM12401, 科目ナンバリング：LJS-PHI601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：お葬式の思想史

2・授業の目的と概要：近親者の死は深い悲しみをもたらすものであるが、その出来事と向かい合うことで、人類は様々な弔いの文化を創り出してきた。時代や場所が変われば、当然弔いの文化もその姿を変える。そこで、本授業では、日本のお葬式に関する論文を受講生たちに精読させ、お葬式からみえる日本人の死生観の変化について深く考察してもらう。

3. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、日本における葬送儀礼の歴史の変遷について基礎知識を獲得するとともに、死をめぐる文化の成立とその意義について深く考察できるようになることである。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第 1 回 ガイダンス—日本の死生観研究と葬送儀礼研究—
- 第 2 回 日本のお葬式概観—新谷尚紀『お葬式』を読む—
- 第 3 回 古代の葬送儀礼“魂呼び”—佐藤弘夫『死者のゆくえ』を読む①—
- 第 4 回 古墳の思想—佐藤弘夫『死者のゆくえ』を読む②—
- 第 5 回 死に臨む儀式—小山聡子『往生際の日本史』を読む—
- 第 6 回 死骸が遺棄された中世都市—勝田至『死者たちの中世』を読む①—
- 第 7 回 死体遺棄と自然葬のあいだ—勝田至『死者たちの中世』を読む②—
- 第 8 回 共同墓地の形成—勝田至『死者たちの中世』を読む③—
- 第 9 回 死者を浄土へ誘う儀式—佐藤弘夫『死者のゆくえ』を読む③—
- 第 10 回 死穢観念と僧侶—松尾剛次『葬式仏教の誕生』を読む—
- 第 11 回 葬式仏教と近世社会—尾藤正英『江戸時代とはなにか』を読む—
- 第 12 回 近世日本の儒学者と葬送儀礼—黒住真『近世日本社会と儒教』を読む—
- 第 13 回 明治政府のイデオロギーと葬送儀礼の変容—森謙一『墓と葬送の社会史』を読む—
- 第 14 回 再び葬式が行われない社会へ—鶴飼秀徳『無葬社会』を読む—
- 第 15 回 まとめ

5. 成績評価方法：本授業は、授業への参加度 30%、ミニットペーパー30%、期末レポート 40%の割合で評価する。

6. 教科書および参考書：課題論文については、授業中に適宜指示する。

7. 授業時間外学習：全受講生は、課題論文を事前に精読し、決められた期日内にミニットペーパーを提出すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本思想史特論Ⅱ

曜日・講時：火曜 4 限

セメスター：2 単位数：2.00 単位

担当教員：引野 亨輔

コード：LM22402, 科目ナンバリング：LJS-PHI602J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：旅から探る日本思想史

2・授業の目的と概要：見知らぬ土地を旅するという体験は、思想形成の大きな契機を与えてくれるものだが、江戸庶民の思想形成を考える時、旅はとりわけ重要な検討素材になる。というのも、江戸時代とは、庶民層がようやく安心して旅を楽しめるようになった時代だからである。そこで、本授業では、受講生たちに、江戸時代に記された幾つかの紀行文を読ませ、課題発表と討論を通じて思想形成過程の分析手法を身に付けてもらう。

3. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、江戸時代に記された紀行文の読解を通じて、思想形成過程の分析手法を身に付けることである。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回 ガイダンス

第 2 回 旅と学び—橋南谿『東遊記』を読む①—

第 3 回 旅人からみた東北—橋南谿『東遊記』を読む②—

第 4 回 江戸時代の名所論義—橋南谿『東遊記』を読む③—

第 5 回 お国自慢の誕生—橋南谿『東遊記』を読む④—

第 6 回 郷土の礼讃と軽蔑—橋南谿『東遊記』を読む⑤—

第 7 回 江戸時代の地域比較—橋南谿『西遊記』を読む①—

第 8 回 旅と怪異—橋南谿『西遊記』を読む②—

第 9 回 異なる自然環境—橋南谿『西遊記』を読む③—

第 10 回 日本のなかの「異国」—橋南谿『西遊記』を読む④—

第 11 回 旅立ちの風景—菅江真澄『いななかみち』を読む—

第 12 回 旅人と郷土言葉—菅江真澄『あきたのかりね』を読む—

第 13 回 江戸時代の知識人ネットワーク—菅江真澄『おののふるさと』を読む—

第 14 回 紀行文からみえる江戸時代—菅江真澄『そとがはまかぜ』を読む—

第 15 回 まとめ

5. 成績評価方法：本授業は、1 人 1 回ずつ担当する学生発表 60%、授業への参加度 20%、各授業中に行う史料読解力チェック 20%の割合で評価する。

6. 教科書および参考書：課題史料は、授業ごとにコピーを配付する。

7. 授業時間外学習：発表担当となった受講生は、事前に発表準備を進める。
授業ごとに指定する課題史料は、受講生全員が事前に精読しておく。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本思想史特論Ⅲ

曜日・講時：火曜 4 限

セメスター：1 単位数：2.00 単位

担当教員：引野 亨輔

コード：LM12402, 科目ナンバリング：LJS-PHI609J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：お葬式の思想史

2・授業の目的と概要：近親者の死は深い悲しみをもたらすものであるが、その出来事と向かい合うことで、人類は様々な弔いの文化を創り出してきた。時代や場所が変われば、当然弔いの文化もその姿を変える。そこで、本授業では、日本のお葬式に関する論文を受講生たちに精読させ、お葬式からみえる日本人の死生観の変化について深く考察してもらう。

3. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、日本における葬送儀礼の歴史の変遷について基礎知識を獲得するとともに、死をめぐる文化の成立とその意義について深く考察できるようになることである。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第 1 回 ガイダンス—日本の死生観研究と葬送儀礼研究—
- 第 2 回 日本のお葬式概観—新谷尚紀『お葬式』を読む—
- 第 3 回 古代の葬送儀礼“魂呼び”—佐藤弘夫『死者のゆくえ』を読む①—
- 第 4 回 古墳の思想—佐藤弘夫『死者のゆくえ』を読む②—
- 第 5 回 死に臨む儀式—小山聡子『往生際の日本史』を読む—
- 第 6 回 死骸が遺棄された中世都市—勝田至『死者たちの中世』を読む①—
- 第 7 回 死体遺棄と自然葬のあいだ—勝田至『死者たちの中世』を読む②—
- 第 8 回 共同墓地の形成—勝田至『死者たちの中世』を読む③—
- 第 9 回 死者を浄土へ誘う儀式—佐藤弘夫『死者のゆくえ』を読む③—
- 第 10 回 死穢観念と僧侶—松尾剛次『葬式仏教の誕生』を読む—
- 第 11 回 葬式仏教と近世社会—尾藤正英『江戸時代とはなにか』を読む—
- 第 12 回 近世日本の儒学者と葬送儀礼—黒住真『近世日本社会と儒教』を読む—
- 第 13 回 明治政府のイデオロギーと葬送儀礼の変容—森謙一『墓と葬送の社会史』を読む—
- 第 14 回 再び葬式が行われない社会へ—鶴飼秀徳『無葬社会』を読む—
- 第 15 回 まとめ

5. 成績評価方法：本授業は、授業への参加度 30%、ミニットペーパー30%、期末レポート 40%の割合で評価する。

6. 教科書および参考書：課題論文については、授業中に適宜指示する。

7. 授業時間外学習：全受講生は、課題論文を事前に精読し、決められた期日内にミニットペーパーを提出すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本思想史特論Ⅳ

曜日・講時：火曜 4 限

セメスター：2 単位数：2.00 単位

担当教員：引野 亨輔

コード：LM22403, 科目ナンバリング：LJS-PHI610J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：旅から探る日本思想史

2・授業の目的と概要：見知らぬ土地を旅するという体験は、思想形成の大きな契機を与えてくれるものだが、江戸庶民の思想形成を考える時、旅はとりわけ重要な検討素材になる。というのも、江戸時代とは、庶民層がようやく安心して旅を楽しめるようになった時代だからである。そこで、本授業では、受講生たちに、江戸時代に記された幾つかの紀行文を読ませ、課題発表と討論を通じて思想形成過程の分析手法を身に付けてもらう。

3. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、江戸時代に記された紀行文の読解を通じて、思想形成過程の分析手法を身に付けることである。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回 ガイダンス

第 2 回 旅と学び—橋南谿『東遊記』を読む①—

第 3 回 旅人からみた東北—橋南谿『東遊記』を読む②—

第 4 回 江戸時代の名所論義—橋南谿『東遊記』を読む③—

第 5 回 お国自慢の誕生—橋南谿『東遊記』を読む④—

第 6 回 郷土の礼讃と軽蔑—橋南谿『東遊記』を読む⑤—

第 7 回 江戸時代の地域比較—橋南谿『西遊記』を読む①—

第 8 回 旅と怪異—橋南谿『西遊記』を読む②—

第 9 回 異なる自然環境—橋南谿『西遊記』を読む③—

第 10 回 日本のなかの「異国」—橋南谿『西遊記』を読む④—

第 11 回 旅立ちの風景—菅江真澄『いななかみち』を読む—

第 12 回 旅人と郷土言葉—菅江真澄『あきたのかりね』を読む—

第 13 回 江戸時代の知識人ネットワーク—菅江真澄『おののふるさと』を読む—

第 14 回 紀行文からみえる江戸時代—菅江真澄『そとがはまかぜ』を読む—

第 15 回 まとめ

5. 成績評価方法：本授業は、1 人 1 回ずつ担当する学生発表 60%、授業への参加度 20%、各授業中に行う史料読解力チェック 20%の割合で評価する。

6. 教科書および参考書：課題史料は、授業ごとにコピーを配付する。

7. 授業時間外学習：発表担当となった受講生は、事前に発表準備を進める。
授業ごとに指定する課題史料は、受講生全員が事前に精読しておく。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本比較思想史特論 I

曜日・講時：月曜 3 限

セメスター：2 単位数：2.00 単位

担当教員：片岡 龍

コード：LM21301, 科目ナンバリング：LJS-PHI603J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：森崎和江研究 II

2・授業の目的と概要：日本の思想・文化を研究するための基本知識を身に付けることを目的とし、テキストと研究論文を精読した発表をもとに、対話をとおして思想史の方法論的自覚を高める。具体的には詩人・ノンフィクション作家の森崎和江（1927-2022）の思索を通じて、彼女が生きた時代の朝鮮と日本を中心に、当時の思想・文化的課題について考察する。

3. 学習の到達目標：思想史学の基本的な研究方法（文献調査、伝記研究、時代的考察、テーマ設定など）を身に着ける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は基本的に発表・対話形式で進める。

第 1 回：ガイダンス

第 2 回：森崎和江について

第 3 回：『海路残照』

第 4 回：『湯かげんいかが』

第 5 回：『慶州は母の呼び声 一わが原郷』

第 6 回：『悲しすぎて笑う 一女座長筑紫美主子の半生』

第 7 回：『大人の童話・死の話』

第 8 回：『詩的言語が萌える頃』

第 9 回：『風になりたや旅ごころ』

第 10 回：『荒野の郷 一民権家岡田孤鹿と二人妻』

第 11 回：『いのちを産む』

第 12 回：『いのちの素顔』

第 13 回：『二つのことば・二つのこころ 一ある植民二世の戦後』

第 14 回：『いのち、響きあう』

第 15 回：『北上幻想 一いのちの母国をさがす旅』

※第 3～14 回のテキストは、森崎和江の著作からの例示

定期試験：なし

5. 成績評価方法：平常点 100%（出席 40%、発表・討論 60%）

6. 教科書および参考書：教科書（テキスト）・参考書：授業中に適宜資料を配布します。

7. 授業時間外学習：発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：日本比較思想史特論Ⅱ

曜日・講時：月曜3限

セメスター：2 単位数：2.00 単位

担当教員：片岡 龍

コード：LM21302, 科目ナンバリング：LJS-PHI611J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：森崎和江研究Ⅱ

2・授業の目的と概要：日本の思想・文化を研究するための基本知識を身に付けることを目的とし、テキストと研究論文を精読した発表をもとに、対話をとおして思想史の方法論的自覚を高める。具体的には詩人・ノンフィクション作家の森崎和江（1927-2022）の思索を通じて、彼女が生きた時代の朝鮮と日本を中心に、当時の思想・文化的課題について考察する。

3. 学習の到達目標：思想史学の基本的な研究方法（文献調査、伝記研究、時代的考察、テーマ設定など）を身に着ける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は基本的に発表・対話形式で進める。

第1回：ガイダンス

第2回：森崎和江について

第3回：『海路残照』

第4回：『湯かげんいかか』

第5回：『慶州は母の呼び声 一わが原郷』

第6回：『悲しすぎて笑う 一女座長筑紫美主子の半生』

第7回：『大人の童話・死の話』

第8回：『詩的言語が萌える頃』

第9回：『風になりたや旅ごころ』

第10回：『荒野の郷 一民権家岡田孤鹿と二人妻』

第11回：『いのちを産む』

第12回：『いのちの素顔』

第13回：『二つのことば・二つのこころ 一ある植民二世の戦後』

第14回：『いのち、響きあう』

第15回：『北上幻想 一いのちの母国をさがす旅』

※第3～14回のテキストは、森崎和江の著作からの例示

定期試験：なし

5. 成績評価方法：平常点100%（出席40%、発表・討論60%）

6. 教科書および参考書：教科書（テキスト）・参考書：授業中に適宜資料を配布します。

7. 授業時間外学習：発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本文化思想史特論 I

曜日・講時：月曜 3 限

セメスター：1 単位数：2.00 単位

担当教員：片岡 龍

コード：LM11301, 科目ナンバリング：LJS-PHI604J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：森崎和江研究 I

2・授業の目的と概要：日本の思想・文化を研究するための基本知識を身に付けることを目的とし、テキストと研究論文を精読した発表をもとに、対話をとおして思想史の方法論的自覚を高める。具体的には詩人・ノンフィクション作家の森崎和江（1927-2022）の思索を通じて、彼女が生きた時代の朝鮮と日本を中心に、当時の思想・文化的課題について考察する。

3. 学習の到達目標：思想史学の基本的な研究方法（文献調査、伝記研究、時代的考察、テーマ設定など）を身に着ける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は基本的に発表・対話形式で進める。

第1回：ガイダンス

第2回：森崎和江について

第3回：『まっくら 一女鉦夫からの聞き書き』

第4回：『非所有の所有』

第5回：『第三の性 一はるかなるエロス』

第6回：『ははのくにと幻想婚』

第7回：『闘いとエロス』

第8回：『異族の原基』

第9回：『匪賊の笛』

第10回：『からゆきさん』

第11回：『光の海のなかを』

第12回：『ふるさと幻想』

第13回：『遙かなる祭』

第14回：『産小屋日記』

第15回：『対話 魂ッ子の旅（野添憲治との対談集）』

※第3～14回のテキストは、森崎和江の著作からの例示
定期試験：なし

5. 成績評価方法：平常点 100%（出席 40%、発表・討論 60%）

6. 教科書および参考書：教科書（テキスト）・参考書：授業中に適宜資料を配布します。

7. 授業時間外学習：発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：日本文化思想史特論Ⅱ

曜日・講時：月曜3限

セメスター：1 単位数：2.00 単位

担当教員：片岡 龍

コード：LM11302, 科目ナンバリング：LJS-PHI613J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：森崎和江研究Ⅰ

2・授業の目的と概要：日本の思想・文化を研究するための基本知識を身に付けることを目的とし、テキストと研究論文を精読した発表をもとに、対話をとおして思想史の方法論的自覚を高める。具体的には詩人・ノンフィクション作家の森崎和江（1927-2022）の思索を通じて、彼女が生きた時代の朝鮮と日本を中心に、当時の思想・文化的課題について考察する。

3. 学習の到達目標：思想史学の基本的な研究方法（文献調査、伝記研究、時代的考察、テーマ設定など）を身に着ける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は基本的に発表・対話形式で進める。

第1回：ガイダンス

第2回：森崎和江について

第3回：『まっくら 一女鉦夫からの聞き書き』

第4回：『非所有の所有』

第5回：『第三の性 一はるかなるエロス』

第6回：『ははのくにと幻想婚』

第7回：『闘いとエロス』

第8回：『異族の原基』

第9回：『匪賊の笛』

第10回：『からゆきさん』

第11回：『光の海のなかを』

第12回：『ふるさと幻想』

第13回：『遙かなる祭』

第14回：『産小屋日記』

第15回：『対話 魂ッ子の旅（野添憲治との対談集）』

※第3～14回のテキストは、森崎和江の著作からの例示
定期試験：なし

5. 成績評価方法：平常点100%（出席40%、発表・討論60%）

6. 教科書および参考書：教科書（テキスト）・参考書：授業中に適宜資料を配布します。

7. 授業時間外学習：発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：日本思想史総合演習 I

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：引野 亨輔、片岡 龍

コード：LM13401, **科目ナンバリング：**LJS-PHI605J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題 I

2・授業の目的と概要：参加者が各自の研究テーマに即して研究史の整理と研究史上の問題点の指摘とを行い、その報告をめぐって討論する。発表者にはそれぞれコメンテーターを付ける。参加者それぞれが、専門とする研究対象や分野の垣根を超えて活発な議論を行うことによって、相互の問題意識を深め、研究方法を錬磨していくことを目指す。

3. 学習の到達目標：日本思想史の研究方法の会得と深化

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

5. 成績評価方法：平常点（出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文）[100%]

6. 教科書および参考書：佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ペリかん社）ほか

7. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは 1 日前、小論文は発表終了後 2 週間以内に完成するよう準備する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本思想史総合演習Ⅱ

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：2 単位数：2.00 単位

担当教員：引野 亨輔、片岡 龍

コード：LM23403, 科目ナンバリング：LJS-PHI606J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題Ⅱ

2・授業の目的と概要：演習参加者が各自の最新の研究成果を発表し、それをめぐって討論を行う。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。発表後、授業での批判と意見を踏まえて本格的な学術論文の作成を進め、提出する。

3. 学習の到達目標：研究論文の作成

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

5. 成績評価方法：平常点（出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文）[100%]

6. 教科書および参考書：佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ぺりかん社）ほか

7. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは 1 日前、小論文は発表終了後 2 週間以内に完成するよう準備する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本思想史総合演習Ⅲ

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：1 単位数：2.00 単位

担当教員：引野 亨輔、片岡 龍

コード：LM13402, 科目ナンバリング：LJS-PHI615J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題 I

2・授業の目的と概要：参加者が各自の研究テーマに即して研究史の整理と研究史上の問題点の指摘とを行い、その報告をめぐって討論する。発表者にはそれぞれコメンテーターを付ける。参加者それぞれが、専門とする研究対象や分野の垣根を超えて活発な議論を行うことによって、相互の問題意識を深め、研究方法を錬磨していくことを目指す。

3. 学習の到達目標：日本思想史の研究方法の会得と深化

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

5. 成績評価方法：平常点（出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文）[100%]

6. 教科書および参考書：佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ペリかん社）ほか

7. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは 1 日前、小論文は発表終了後 2 週間以内に完成するよう準備する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：日本思想史総合演習Ⅳ

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：引野 亨輔、片岡 龍

コード：LM23404, **科目ナンバリング：**LJS-PHI616J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題Ⅱ

2・授業の目的と概要：演習参加者が各自の最新の研究成果を発表し、それをめぐって討論を行う。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。発表後、授業での批判と意見を踏まえて本格的な学術論文の作成を進め、提出する。

3. 学習の到達目標：研究論文の作成

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

5. 成績評価方法：平常点（出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文） [100%]

6. 教科書および参考書：佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ぺりかん社）ほか

7. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは 1 日前、小論文は発表終了後 2 週間以内に完成するよう準備する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本思想史研究演習 I

曜日・講時：水曜 5 限

セメスター：1 単位数：2.00 単位

担当教員：引野 亨輔、片岡 龍

コード：LM13504, 科目ナンバリング：LJS-PHI607J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題 I

2・授業の目的と概要：参加者が各自の研究テーマに即して研究史の整理と研究史上の問題点の指摘とを行い、その報告をめぐって討論する。発表者にはそれぞれコメンテーターを付ける。参加者それぞれが、専門とする研究対象や分野の垣根を超えて活発な議論を行うことによって、相互の問題意識を深め、研究方法を錬磨していくことを目指す。

3. 学習の到達目標：日本思想史の研究方法の会得と深化

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

5. 成績評価方法：平常点（出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文）[100%]

6. 教科書および参考書：佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ペリかん社）ほか

7. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは 1 日前、小論文は発表終了後 2 週間以内に完成するよう準備する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本思想史研究演習Ⅱ

曜日・講時：水曜 5 限

セメスター：2 単位数：2.00 単位

担当教員：引野 亨輔、片岡 龍

コード：LM23503, 科目ナンバリング：LJS-PHI608J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題Ⅱ

2・授業の目的と概要：演習参加者が各自の最新の研究成果を発表し、それをめぐって討論を行う。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。発表後、授業での批判と意見を踏まえて本格的な学術論文の作成を進め、提出する。

3. 学習の到達目標：研究論文の作成

4. 授業の内容・方法と進捗予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

5. 成績評価方法：平常点（出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文）[100%]

6. 教科書および参考書：佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ぺりかん社）ほか

7. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは 1 日前、小論文は発表終了後 2 週間以内に完成するよう準備する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本思想史研究演習Ⅲ

曜日・講時：水曜 5 限

セメスター：1 単位数：2.00 単位

担当教員：引野 亨輔、片岡 龍

コード：LM13505, 科目ナンバリング：LJS-PHI617J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題 I

2・授業の目的と概要：参加者が各自の研究テーマに即して研究史の整理と研究史上の問題点の指摘とを行い、その報告をめぐって討論する。発表者にはそれぞれコメンテーターを付ける。参加者それぞれが、専門とする研究対象や分野の垣根を超えて活発な議論を行うことによって、相互の問題意識を深め、研究方法を錬磨していくことを目指す。

3. 学習の到達目標：日本思想史の研究方法の会得と深化

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

5. 成績評価方法：平常点（出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文）[100%]

6. 教科書および参考書：佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ペリかん社）ほか

7. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは 1 日前、小論文は発表終了後 2 週間以内に完成するよう準備する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本思想史研究演習IV

曜日・講時：水曜 5 限

セメスター：2 単位数：2.00 単位

担当教員：引野 亨輔、片岡 龍

コード：LM23504, 科目ナンバリング：LJS-PHI618J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題Ⅱ

2・授業の目的と概要：演習参加者が各自の最新の研究成果を発表し、それをめぐって討論を行う。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。発表後、授業での批判と意見を踏まえて本格的な学術論文の作成を進め、提出する。

3. 学習の到達目標：研究論文の作成

4. 授業の内容・方法と進捗予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

5. 成績評価方法：平常点（出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文）[100%]

6. 教科書および参考書：佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ぺりかん社）ほか

7. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは 1 日前、小論文は発表終了後 2 週間以内に完成するよう準備する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：